

# 松尾大社の 「御田植式」

6月5日 松尾大社に於いて、御田植式がとり行われました。

神饌田(しんせんでん)の前に、祭壇が設けられ、神官の祝詞と巫女の舞等の奉納により神饌田が清められます。

次に、今年の豊作を祈り可愛い装束の子供達が水田に入り、素手で丁寧に稲苗を植えて行きます。

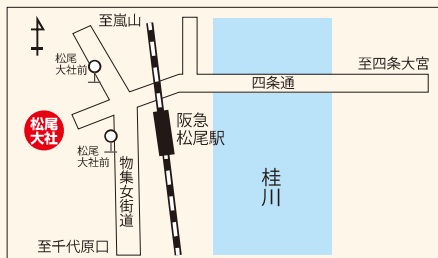
この後、神饌田では、7月17日の御田祭(おんださい)、10月8日の抜穂祭(ぬきほさい)が行われます。お酒の神様でもある松尾大社のとても大切な行事の一つです。

松尾大社の御田植式や、神饌田の管理には、地域の農家が携われ、代掻きや稲刈りに、農家の人達が準備から協力されています。地域で支える行事が続いていくことと、この日の体験がいつまでも参加した子供たちの記憶に残ることを願います。

(小島 喬子 編集委員)

## ◆松尾大社へのアクセス

阪急電車嵐山線 松尾駅下車 徒歩約3分  
市バス/京都バス 松尾大社前下車 徒歩約3分



所在地: 西京区嵐山宮町3 TEL: 075 (871) 5016  
ホームページ: <http://www.matsunoo.or.jp/>

## 京都市農業委員会のホームページをご存知ですか?

京都市農業委員会のホームページに農委だよりのバックナンバーを掲載しました。  
また、各種手続を様式も掲載しております。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/nougyou-i/> 京都市 農委 検索

ここを離る〜文化祭  
第26回国民文化祭・京都2011  
平成23年10月29日〜11月6日



# 京都市 農委だよ

右京区嵯峨野で野菜や水稻を栽培する中村さん御家族は、今年から新たに「トマトの樽栽培」を始められました。ハウスには、ヤシの繊維を使った培地と養液が入った半円球の「樽」が並びます。



がんばっている農業者  
中村 愛里さん (右京区嵯峨野)

モノを作ることが好きで、大学では陶芸を専攻していました。農家に生まれ、陶芸でも土を触っていたことから、農業をとても身近に感じ、「農業とモノづくりを両立したい」という思いで、昨年4月に就農しました。  
父の栽培技術に対する向上心、母の経営面からのサポートなど、二人が得意とするところをバランス良く学んでいきたいです。

愛里さん

土作りや土壌消毒が不要で、連作障害を回避できることに魅力を感じ、樽栽培システムの導入を決めました。

父: 尚司さん

樽栽培では、反省する点がたくさんあります。でも、お客さんから「今まで食べたトマトで一番美味しかった。」と声を掛けていただいたことが一番の収穫です。

母: 仁美さん

直売所「畑にあるお店」では、野菜が手作りの帽子掛けや、おしゃれなお皿にディスプレイされた様子が、目を引きま。併設の作業場にはスタンドグラスを配し、楽しみながら作業ができるように工夫がされていきました。(今井 義弘 農業委員)

栽培だけでなく、最近では、直売所にも手作りのモノが増えてきました。我が家の女性はこんなところにも「喜び」を見つけたようです。

父: 尚司さん



トマト箱もオリジナルデザイン!

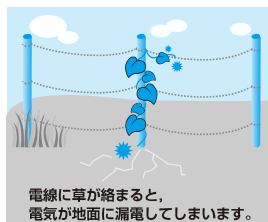


- ・がんばっている農業者…1 (中村 愛里さん 右京区嵯峨野)
- ・獣害対策について…2
- ・委員会掲示板…2
- ・お米でパン作り…3 (中嶋 のぶ子さん 伏見区向島)
- ・御田植式(松尾大社)…4

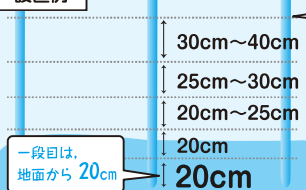
# 獣害対策

## ～電気柵ワンポイントチェック～

獣害防止に活躍する電気柵ですが、夏草が大きくなる時期、電線に草が絡まったり、高く伸びた草が触れると「漏電」します。漏電した電気柵は、肝心の電気ショックを害獣に与えられず、電線が「ただのヒモ」と同じになり、簡単に侵入を許してしまいます。電気柵の効果を十分に発揮させるためには、漏電の有無、電気柵周辺の雑草等の見回りや電圧のチェックをこまめに行いましょう。



### 設置例



シカ対策には、2m以上の支柱を用意し、飛び込みによる侵入がある場合には線を追加します。



### 「草刈が面倒だから…」と最下段の電線を高めに設置されていませんか？

イノシシやシカには最下段の電線の高さを地面から「20cm」に設置するのが効果的といわれています。イノシシやニホンジカが柵の中に侵入する方法は「もぐり込み」がほとんどといわれていますので、漏電と併せてこちらも御確認ください。

※出展：京都府農林水産技術センター農林センター「獣害対策マニュアル」

出展資料は「京都府農林センター」ホームページ（<http://www.pref.kyoto.jp/nosoken/>）に掲載されています。

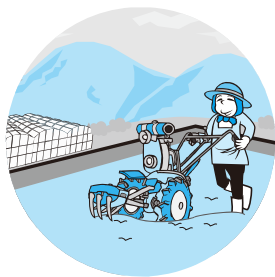


## ★農地利用状況調査について

農業委員会では、かけがえのない農地を守るため、農地の利用状況調査を実施しています。

昨年は、農業委員と165名の農地調査協力員が連携し、現地調査や土地所有者などへの意向確認を進める中で、約2.9ヘクタールの耕作放棄地等を解消することが出来ましたが、新たな耕作放棄地も発見されるなど、継続的な取組が必要となっています。

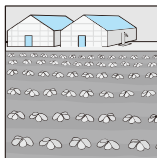
農地の利用状況調査は、農地法により、農業委員会が毎年実施する業務として位置付けられています。今後も、農地の有効利用を図り、耕作放棄地の早期改善や未然防止に向けた活動として取り組みますので、御理解と御協力をお願いいたします。



### 委員会掲示板

## ★「地目変更登記」はお済みですか？

農地転用の際、農地法に基づく手続きをしていますが、登記簿の地目を変更するためには、別途、法務局で「地目変更登記」の手続きが必要になります。土地の所在地によって、法務局の管轄地域が異なりますので御注意ください。



| 京都府法務局 | 電話番号         | 京都市内の管轄区域                  |
|--------|--------------|----------------------------|
| 本局     | 075(231)0131 | 北区、上京区、左京区、中京区、東山区、山科区、下京区 |
| 嵯峨出張所  | 075(861)0742 | 右京区(京北含む)、西京区              |
| 伏見出張所  | 075(645)6726 | 南区、伏見区                     |



### TPP 交渉参加反対署名運動

京都市農業委員会では農業委員会系統組織の運動に賛同し、署名活動に取り組み、887名の署名を、全国農業会議所へ提出しました。御協力いただきました方々にお礼申し上げます。

### 【お詫びと訂正】

平成22年12月発行の京都市農委だより第20号の目次最下段に記載した「藤井勝さん（右京区京北）」は「藤野勝さん（右京区京北）」の誤りです。お詫びして訂正いたします。

# お米でパンづくり！

米粉でパンを作っている伏見区向島の  
中嶋のぶ子さん取材しました。

毎月第1・3金曜日の午前中に米粉で作ったお菓子やパン・野菜などをお友達と販売されているほか、地域のイベントなどでも米粉の加工食品を販売されています。

(中嶋 繁一 編集委員)



水田が広がる向島地域

## ～自分のところの材料で作りたい～

看板商品は、「米粉のシフォンケーキ」と「きなこクッキー」。  
材料の米粉ときな粉は、自家栽培のお米と大豆が使用されています。「せっかく作るなら自分のところで育てたものを使いたい。」というのが、のぶ子さんの「こだわり」。

最近「我が家で収穫したネギが使えないかな…」という発想から、手づくりねぎ味噌とお米で作った米粉パンも完成。

“米どころ向島”に嫁がれたのぶ子さん、ご飯も好きだけどパンが大好き。「お米からパンが作れたら素敵だな」というのが原点だそうです。



のぶ子さんとオープン。このオープンとは10年来のお付き合いです。



かわいいイチゴの箱も、素敵なシールも知人が手作りしてくれたもの。

## ～まだまだ挑戦！～

のぶ子さんは、お米からパンを焼くホームベーカリーに興味を持ち、メーカーの説明会に参加された際、「こんなにお米の風味を活かす方法があったんや！」と驚いたとのこと。新たに試してみたいパン作りの方法も、既にイメージが出来ているそうです。

人との出会い、パンとの出会いを通じて、のぶ子さんの美味しい作品は、今後も増えていきそうです。

## ～人との出会いが楽しい～

最近よく耳にする「米粉パン」ですが、のぶ子さんが米粉パン作りを始めた10年程前には、ほとんど知られていませんでした。「そんな頃に、米粉パンの作り方を知っている人を教えてもらったこと、作り方を教えてもらったこと、お米を製粉してくれる会社を紹介してもらったこと、人との出会いがあって、お米でパンが作れるようになった。」とのぶ子さんは話されます。

## ～若い人に伝えたい～

米粉パン等の販売には知人が作ってくれた小物やシールが大活躍。「パン作りを教えて」と頼まれて、近所で出会った人や、他府県から訪ねて来た人に教えることもあるそうです。御自身の技術を「若い人に伝えたい」という、のぶ子さんの思いも、人との出会いを広げているようです。

## 編集後記

夢が幻か、幸運にも今回、農業委員会だよりの全国コンクールにおいて、最優秀賞を頂くこととなりました。編集に御協力いただきました関係者の皆様、本当にありがとうございました。今後とも、一層の紙面充実のため、御指導御協力よろしくをお願いします。

社会情勢が激変する中、夢を持つ機会が少ない今日ですが、読者の皆様が、一瞬でも夢を感じられるような広報紙でありたいと思います。  
(端 清隆 編集委員長)